



第95回 関東信越国税局酒類鑑評会 審査概況

令和 6 年11月14日

関 東 信 越 国 税 局

関東信越国税局酒類鑑評会は、酒類の品質評価を通じて酒造技術の進歩・発展を促し、当局管内で製造される酒類の品質向上を図り、酒類業の健全な発達に資することを目的として行われるもので、今回で95回目を迎えました。

《担当》

国税広報広聴室 報道係

電話：048-600-3111(内線 2043)

第95回関東信越国税局酒類鑑評会について

関東信越国税局酒類鑑評会は、酒類の品質評価を通じて酒造技術の進歩・発展を促し、当局管内で製造される酒類の品質向上を図り、酒類業の健全な発達に資することを目的として行われるもので、今回で95回目、第1回目の開催年から数えますと、59年目を迎えました。

当局の鑑評会は3部制で実施しており、174製造場から吟醸酒の部に131点、純米吟醸酒の部に147点、純米酒の部に91点の出品があり、10月3日及び4日に第一審の品質評価を、10月9日に第二審の品質評価を行いました。

審査の結果、吟醸酒の部において成績が優秀であった出品者について、最上位であった1場を「最優秀賞」、最上位に続く上位2場を「特別賞」、加えて47場を「優秀賞」に選定しました。同様に、純米吟醸酒の部においては、最優秀賞1場、特別賞2場、優秀賞46場、純米酒の部においては、最優秀賞1場、特別賞2場、優秀賞29場を選定しました。

令和5酒造年度は、春から秋にかけて全国的に気温が高く、夏場は記録的な猛暑となったため、原料米が硬質となり醗で溶け難い性質となったうえ、品種によっては必要な量が確保できなかったものもありました。また、暖冬で積雪量が少なく、酒造りの最盛期となる1月から2月にかけても暖かい日が続き、酒造りには難しい状況でありました。

そのような中においても、製造に携わった皆様が、日頃から研鑽を積んできた製造技術のすべてを注ぎ込んで原料処理、麴造り、発酵管理及び熟成管理を適切に行われた結果、香味の調和がとれた、優れた品質を有するお酒が数多く出品されていました。今回の結果から、改めて当局管内6県の各製造場における技術力の高さを確認するとともに、伝統的な技術だけでなく、新たな技術の修得にも真摯に取り組まれてこられた皆様の努力に心より敬意を表します。

各部門に出品された清酒の総評は、以下のとおりです。

吟醸酒の部では、上品で落ち着いた香りに、程よい甘味を有しながらもスッキリとした繊細な味わいのものが多く見受けられました。

純米吟醸酒の部では、吟醸酒固有の芳香があり、原料米由来の旨味、なめらかさ及びふくらみが感じられながらも軽快感と両立するなど、完成度の高いものが多数を占めていました。

純米酒の部では、多様性に富み、フレッシュでスッキリとしたもの、フルーティーでふくらみのあるもの、原料米由来の旨味がしっかりありながらも酸味が効いてあと味の切れの良いものなど、それぞれの蔵の個性が発揮されたものが多く認められました。

改めて、当局管内には数多くの銘醸地・銘醸蔵があり、地域や蔵の特長を生かした高品質な清酒を生産しておられることを実感いたしました。

当局管内の清酒製造場の皆様の酒造技術の向上に対する熱意に敬意を表しますとともに、今後とも、関東信越国税局酒類鑑評会を通じて、当局管内の清酒製造場の酒造技術がより一層向上していくことを期待します。

第95回関東信越国税局酒類鑑評会審査概況

1 目的

酒類の品質評価を通じて酒造技術の進歩・発展を促し、当局管内で製造される酒類の品質向上を図り、酒類業の健全な発達に資することを目的とする。

2 出品部門

1製造場当たり、下記の各部門について1点まで出品可とした。

(1)吟醸酒の部

吟醸酒(令和5酒造年度に製造されたもの。純米吟醸酒を含まない。)

(2)純米吟醸酒の部

純米吟醸酒(令和5酒造年度に製造されたもの。)

(3)純米酒の部

純米酒(令和5酒造年度に製造され、精米歩合61%以上のもの。)

3 出品状況

174の製造場から、吟醸酒の部に131点、純米吟醸酒の部に147点、純米酒の部に91点の出品があった。

なお、出品酒の県別内訳は別紙1のとおりである。

4 品質評価年月日

令和6年10月3日(木)、4日(金)に第一審を、10月9日(水)に第二審を行い、延べ3日間にわたり品質審査を実施した。

5 品質評価場所

関東信越国税局 鑑定官室

6 品質評価員

分析型品質評価に精通した公設酒造技術指導機関職員、県酒造組合技術委員、独立行政法人酒類総合研究所職員及び鑑定官室職員(詳細は別紙2のとおり)

7 品質評価法

全ての部門で品温を約20℃として品質評価を行った。

8 審査結果

審査の結果、全ての部においてそれぞれ1場が最優秀賞、2場が特別賞、加えて吟醸酒の部から47場、純米吟醸酒の部から46場、純米酒の部から29場が優秀賞を受賞した。

なお、受賞場は別紙3、最優秀賞受賞酒の詳細は別紙4のとおりである。

別紙1

第95回関東信越国税局酒類鑑評会出品状況

県名	出品場数			吟醸酒の部		
	第95回 (令和6年)	第94回 (令和5年)	増減	第95回 (令和6年)	第94回 (令和5年)	増減
茨城	15	16	-1	12	13	-1
栃木	18	19	-1	14	15	-1
群馬	14	15	-1	9	11	-2
埼玉	15	16	-1	13	14	-1
新潟	60	67	-7	53	54	-1
長野	52	56	-4	30	28	+2
計	174	189	-15	131	135	-4

県名	純米吟醸酒の部			純米酒の部		
	第95回 (令和6年)	第94回 (令和5年)	増減	第95回 (令和6年)	第94回 (令和5年)	増減
茨城	13	14	-1	7	5	+2
栃木	17	16	+1	15	11	+4
群馬	14	13	+1	8	8	±0
埼玉	11	13	-2	7	5	+2
新潟	46	55	-9	32	30	+2
長野	46	51	-5	22	23	-1
計	147	162	-15	91	82	+9

第95回関東信越国税局酒類鑑評会品質評価員

(敬称略)

	県名	氏 名	所 属	役 職
外 部 品 質 評 価 員	茨 城	吉浦 貴紀	茨城県産業技術イノベーションセンター	技術支援部 フード・ケミカルグループ 首席研究員
		飛田 啓輔	茨城県産業技術イノベーションセンター	技術支援部 フード・ケミカルグループ 主任研究員
		藤村 俊文	来福酒造株式会社	代表取締役
		深谷 篤志	株式会社武勇	製造部 常陸杜氏
	栃 木	筒井 達也	栃木県産業技術センター	食品技術部 微生物応用研究室 主任研究員
		秋田 徹	惣誉酒造株式会社	製造部 杜氏
		小野 誠	株式会社外池酒造店	醸造課 杜氏
	群 馬	武田 文宣	群馬県立群馬産業技術センター	発酵醸造戦略係 独立研究員(主幹)
		永井 則吉	永井酒造株式会社	代表取締役
		櫻井 武	浅間酒造株式会社	代表取締役
	埼 玉	横堀 正敏	埼玉県産業技術総合センター 北部研究所	食品・バイオ技術担当 担当部長
		齋藤 健太	埼玉県産業技術総合センター 北部研究所	食品・バイオ技術担当 主任
		岡田 誠	株式会社小山本家酒造	製造第一部門 チーフマネージャー
		村上 大介	北西酒造株式会社	製造部醸造課 杜氏
	新 潟	青木 俊夫	新潟県醸造試験場	場長
		菅原 雅通	新潟県醸造試験場	主任研究員
		本間 一郎	朝日酒造株式会社	生産本部製造部製品1課 課長
		長井 隆	新潟銘醸株式会社	開発研究室長
	長 野	齋藤 良	長野県工業技術総合センター	食品技術部門 食品バイオ部 主任研究員
		豊田 敦至	長野県工業技術総合センター	食品技術部門 食品バイオ部 研究員
		大澤 実	大澤酒造株式会社	専務取締役・杜氏
		湯川 慎一	株式会社湯川酒造店	取締役 杜氏
		阿久津 武広	独立行政法人酒類総合研究所	業務統括部門 副部門長
国 税 局	国	山脇 幹善	鑑定官室	鑑定官室長
		太田 萌	鑑定官室	主任鑑定官
		竹之下 眞喜子	鑑定官室	鑑定官